【審査論文】

保育系学生の実習における造形活動

島田由紀子

Formative activities by female undergraduates majoring childcare at practical training

Yukiko SHIMADA

要旨

幼児にとって造形活動は、他の活動にはない色や形、素材といった視覚的な要素を多分に含んだ創造的な表現活動と考えられる。幼稚園や保育所などでは、さまざまな造形活動が展開されており、保育者にとっても造形や造形活動は保育を行う上で重視していると考えられる。これまで、保育者をめざす学生について、実習における造形活動に焦点をあてた調査研究は少なく、どのような問題点や困っている事柄があるのか明らかにされてこなかった。そこで保育系学生を対象に、実習や実習の準備として行った造形活動についてどのように考え、行い、どのような躓きがみられたか、幼稚園、保育実習のすべてを修了した学生に対して調査を行うことにした。その結果、学生は幼児の表現したい思いを大切にし、季節や行事との結びつきを考えている一方、幼稚園教育要領や保育所保育指針については強く意識していないことがわかった。また、部分実習や責任実習で造形活動を行う場合、保育雑誌や書籍、授業で習った内容をもとに考え実践することが多く、その際、年齢に応じて事前準備や活動の過程を工夫するなどの応用がみられた。活動後の言葉がけでは、幼児の思いを受けとめ共感するに留まり、表現を育む契機につなげていくには実習期間の短さが影響していることも考えられた。活動案は画一的な傾向がみられ、内容や教材に工夫や発展が難しい様子がうかがえたが、それは限られた時間のなかで幼児が楽しめることを優先したことや、あるいは実習評価を考慮したことが推測された。造形活動で困ったことは、導入時の作る方法の説明や、幼児の個人差、時間配分などが上位に挙がった。さらに学生自身は造形活動が好きだと思っているが、同時に苦手意識も持っていることがわかった。これらの問題点を在学中にすべて解決することは難しいが、造形活動の発展や展開までも含めた教材研究や指導法を、具体的に示していくことの必要性が示唆された。

キーワード：保育系学生　造形活動　幼稚園実習　保育所実習

１．はじめに

幼児にとって造形活動は、色や形やさまざまな素材と向き合い表現する、他の活動にはない視覚的な要素を多分に含んだ創造的な表現活動と考えられる。幼稚園や保育所などでは多用な造形活動が展開されており、保育者にとっても造形や造形活動は保育を行う上で重視していると考えられる。幼児の遊びには色や形は大切な要素で、言葉で表すことができない思いや考えを色や形によって表現することがある。その表現は未分化な場合も多くみられるが、その表現を見つけ読み取ることや育むこと、さらに表現の幅を広

和洋女子大学 人文社会科学系 教育学研究室

げたりのばしたりする支えとなる力を保育者は求められている。それは保育者を志す学生にとっても同様である。

保育者養成課程に在籍する学生は、科目名や必修単位数の違いこそあれ造形に関する科目を受講しており、専門科目や実習事前指導のなかで造形活動に関する指導案の作成や模擬保育は行っている。また、実際に幼稚園実習や保育所実習では造形活動を実践する機会もある。造形や実習関連の授業や指導案上ではできたことが、複数の幼児を前にしたときには考えていたようには実践できない場合もあるだろうし、予想することのなかった場面に出会うことも少なくない。したがって、実習に対する躓きや困ったこととして造形活動に関する事柄も含まれていることが予想される。しかし、これまでの保育系の実習の研究では造形活動に関する躓きや問題を取り上げてはこなかった。幼稚園実習全体について実習生の不安や悩みを大平・開[1)]が、対人関係については五十嵐[2)3)]が報告しているが、そこに造形活動そのものの問題は浮かび上がってこない。実習の悩みや不安を解決するには、実習生としての姿勢や心構えも大切であるが、保育表現の技術を十分なものにすることで心配は軽減されることも考えられ、保育者との関係についても、部分実習や責任実習で実践しようとする活動の方法について、多角的に考えて準備することで、園の方針やクラス担任の考えとの違いがあっても、順応して活動に取り組むことで問題を回避することができるかもしれない。

2．目的

ここではこれまで取り上げられることが少なかった、幼稚園実習や保育所実習に対する学生の造形活動への取組みや考え、実際に行ったことや行おうとしたことなどについて把握しようと考えた。そこで幼稚園実習と保育実習のすべてを修了した保育系の学生に、実習や実習の準備として行った造形活動についてどのように考え、行い、どのような躓きがみられたか質問紙調査を行うことで、保育系学生の実習における造形活動の実際について明らかにしたい。実習生として造形活動を行う際、幼児がどのような経験をすることで、何を得たり感じたりして欲しいと考え準備しているのか、何を心がけ、幼児にどのような言葉がけを行っているのか、そして造形活動終了時の作品の扱いや活動の応用展開などについて、実習生として行った事柄を知る。また、学生自身の造形活動案や知識、活動に対する意識、困ったことなどについても把握する。実習生として行った造形活動に関する事柄や問題点が明らかになれば、学生自身が保育者となる前までに補う必要がある知識や技術を、卒業までに専門科目や実習事後指導で習得する機会につなげることができる。また、これから幼稚園実習や保育所実習に臨もうとする学生に対する指導や指導内容にもつながると考えられる。

3．方法

(1) 対象

保育系女子大学の４年生54人を対象とした。保育者養成課程に在籍し、幼稚園実習、保育実習は修了し、造形活動の指導案の作成や、部分実習、責任実習をすでに経験している。

(2) 手続き

学生に質問紙を配布し、自身の実習準備や実習経験を踏まえて回答するよう指示をした。

(3) 質問項目

実習生として５歳児の主活動で造形活動を行う際の、『事前の準備』『活動中』『活動の展開案』『学生自身の意識』の視点から質問項目を設定した。『事前の準備』として「造形活動として重視すること」「保育雑誌や書籍、授業の活用」を、『活動中』については「心がけていること」「幼児への言葉がけ」、『活動の展開案』については「活動案」「活動の応用発展」、『学生自身の意識』として「教材研究」「活動への意識」「困っていること」などについて質問した。５歳児を想定した理由は、実習時に５歳児を担当することが多く[4)5)]、年長児の方が造形活動の経験もあり道具も使えるため、学生から回答が得やすいと考えたからである。また、実習時に５歳児を担当していない場合でも授業内で５歳児を想定した模擬保育や指導案の作成は経験している。

(4) 調査年月

2014年７月。最後の幼稚園実習終了後に実施した。

4．結果と考察

(1) 造形活動で重視すること

造形活動を行う上で何を重視しているのか明らかにすることで、幼児に実習生として考える保育のねらいがみえてくる。ここでは、学生自身が考え設定した造形活動をとおして、幼児にどのような経験をして欲しいのか、何を得て欲しいのか、学生としての視点をみることができると考えた。

造形活動をするとき重視することについて、「季節や行事のつながり」「活動時間」「費用」「以前、授業や実習でやったことがある」「事前準備の労力」「幼児の発達」「幼児の興味関心」「幼児の造形経験」「園の方針」「幼稚園教育要領・保育所保育指針」「その他」の選択肢から複数回答を求めた（図１）。その結果、「季節や行事とのつながり（19.5％）」を重視する回答がもっとも多く、次いで「幼児の発達（16.9％）」「活動時間（15.8％）」であった。回答数が少なかったのは「幼稚園教育要領・保育所保育指針」「園の方針」であった。実習事前指導や授業では、幼稚園教育要領や保育所保育指針の重要性が伝えられ、実習時にも持参しているが、少なくとも造形活動を考えるときにはあまり重視されていないことがわかった。

もっとも重視すること１つについて回答を求めたところ（図２）、回答は「幼児の発達」「幼児の興味関心」「季節や行事とのつながり」に集約され、「費用」「自分の経験」「事前準備の労力」「幼稚園教育要領・保育所保育指針」は皆無であった。「季節や行事」は、実習前の授業で季節や行事の確認が行われていることや、保育雑誌の影響が考えられる。また、「活動時間」を重視することは、指導案に沿って予定され

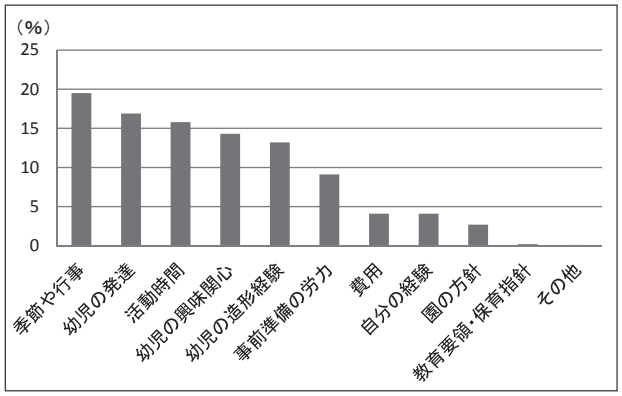


図１　造形活動で重視していること　（複数回答）

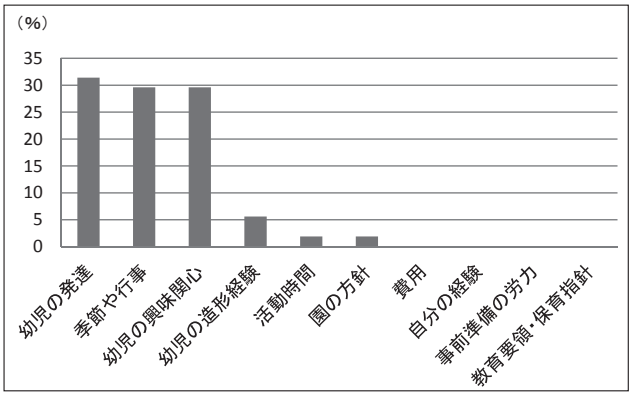


図２　造形活動でもっとも重視していること

た時間通りに活動を行うことへの意識が強いことがうかがえる。

(2) 保育雑誌や書籍、授業の活用

造形活動を設定するとき、保育雑誌や書籍、授業で習ったことを参考にした経験の有無について質問した。その結果、87％が「ある」と回答している。参考にしたことが「ある」学生に、「保育雑誌や書籍、授業で習ったそのまま行うか」について、「はい」「いいえ」「部分的な変更」「その他」の選択肢で尋ねた結果、「はい」が26.5％、「部分的な変更」は65.3％だった。中村[6]が幼稚園実習生を対象に行った調査でも、半数以上の学生が保育雑誌を活用していること、滝山[7]の調査でも実習には保育雑誌の影響がみられることが報告されている。大学の図書館には保育雑誌が定期購入されているので、手に取りやすく参考にしやすいことや、実習前の多くの授業では実習向けの助言が行われるので、参考にすることは当然のことかもしれない。

さらに「部分的な変更の内容」について記述を求めたところ、「幼児の発達に応じて制作過程を簡単にする」ことが多いことがわかった。制作過程を簡単にする、というのは、たとえばはさみで画用紙をある形に切る行為が作る過程に必要で、それが幼児には難しいと実習生が判断したときには、事前に画用紙を形に切って準備しておく、描くことが難しい場合はシールを貼る、などのような、幼児の作る過程をシンプルにすることを指す。実習生の事前準備がより必要となるが、活動時間や時間のなかで完成させ、幼児自身が達成感を得ることにつながることを優先させたと考えられる。

(3) 心がけていること

造形活動のときに心がけていることについて、「完成させること」「見本のようにつくること」「時間配分」「発達に応じた指導や援助」「幼児が表現したい思いを表せるようにすること」「その他」の選択肢で尋ねた結果を図３に示した。もっとも多かった回答は「幼児が表現したい思いを表せるようにすること（51.9％）」、次いで「発達に応じた指導や援助（29.6％）」で、この２つの回答に集約されている。「見本のように」作ることを心がけている回答は皆無であった。また、「もっとも重視していること」が、「幼児の発達」や「興味関心」と回答した者は、「幼児の表現したい思いや発達に応じた指導や援助」を心がける傾向にあることがわかった。保育者による４、５歳児の表現活動での働きかけで重視されていることは「共感・承認・意欲」という調査結果[8]とも共通し、幼児の思いを尊重することを重視しようと心がけていることがわかる。

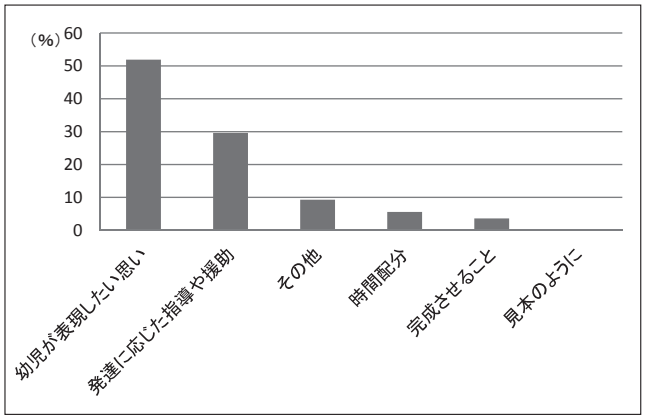


図３　造形活動で心がけていること

(4) 幼児への言葉がけ

完成時に幼児に対してどのような言葉がけをしているか「上手」「頑張ったね」「かっこいい」「かわいい」「その他」の選択肢で尋ねたところ、「上手（５7.4％）」「頑張ったね（22.6%）」の回答が多かった。「その他」には、津田・保木井[9]が指摘する保育者の意図に誘導するような言葉がけはなかったが、「素敵」「す

ごい」が複数回答みられることから、幼児の表現に共感して受けとめているが、幼児の造形表現をさらにのばすような言葉がけはほとんどないことがわかった。実習生という立場であるため幼児とのかかわりが期間的にも時間的にも短く、一人ひとりの表現を受けとめることはできるが、その幼児なりの思いや考えがどのように色や形となって表れているのか、そこからどのように表現活動を広げていくことがさらに創造的な表現につながっていくのか、という判断までは難しいことが考えられる。したがって、阿部[10]による保育者の言葉がけの４つの段階として、「第１段階：受けとめる」、「第２段階：共感する」、「第３段階：保育者の思いの伝達」、「第４段階：受容する、導く」、と仮定されている段階にあてはめると、ここでの実習生の言葉がけは第１、第２段階までとなっており、第３段階にあたる、幼児の思いを把握し保育者の思いを伝えることでさらなる表現活動の展開や飛躍に誘いかけるような言葉がけや、第４段階の幼児の思いを受け入れると同時に次へのステップを提案するような言葉がけには至っていない。実習生と保育者とでは、言葉がけによる影響や効果を踏まえて意図的に行うことができるかということについて大きな違いがあることがわかった。

（5）造形活動の終わったあとの作品の扱い

幼児の作品の扱いについて、「かばんやロッカーにしまう」「展示する」「他の活動につなげる」「その他」の選択肢で質問した。多かった回答は「展示する（42.4％）」「他の活動につなげる（32.6％）」であった。作品を「展示する」ことは、多くの園で行われていることからそれに倣ったことが推測される。「他の活動につなげる」というのは、作ったもので遊ぶ活動につなげる、あるいは遊べるものを作る活動を行っていたと考えられる。少数ながらも「かばんやロッカーにしまう」という回答があったが、完成後の作品の扱いについては実習生の意向だけではなく、園の方針や習慣もともなうことが考えられる。

（6）造形活動案

実習生自身がどれくらい、どのような造形活動案を持っているのか、これまで経験したことがあると考えられる「あじさい」と「運動会後」の造形活動案について尋ねた。「あじさい」の活動案は「にじみ絵」「ちぎり絵」「染め紙」の大きく3つに集約されたが、「運動会後」活動案の数は平均1.1とさらに少なく、描画活動が回答の80％を超えており、活動案が限定されていることがわかる。画材はクレヨンが中心で表現技法の工夫も少ない。造形活動の書籍には、絵具やパス、色鉛筆などを使った活動例[11]や表現技法も多数ある[12]。授業でも取り上げていたものの、授業で得た知識や活動案が実習での実際の場面と結びつきにくいことがわかった。少数の活動案の中には、「メダルを作る」「お弁当を作る」「運動会でやった玉投げの玉を新聞紙で作る」といった、思い出の絵とは異なる活動案もみられた。行事と日常の保育について幼稚園の先生の記述には、運動会で年長児が両手にリボンをつけて踊る姿をみた年少児が、運動会後に自分たちも踊りたいと年長児から教わりにいく様子が書かれている[13]。運動会後には絵を描くだけではなく、運動会で披露した競技や踊りなどが遊びにみられることは予想されることから、競技に必要な道具や踊りが楽しくなるような飾りを制作するなど、さまざまな造形活動案が考えられるような幅広い視点や知識と、幼児の遊びを知ることが必要である。

（7）教材研究

教材研究について「必ず行う」「ときどき行う」「以前やったことがあるので今は行わない」「あまり行っていない」「行っていない」「その他」の選択肢で尋ねた。「必ず行う（70.3％）」がもっとも多く、次に「と

きどき行う（24.1％）であった。吉村・岡田[14]は実習生が教材研究を積極的に行う必要性を強調しているように、幼児の実態に合った造形活動を行うためにも不可欠である。また、実習生の反省点や保育者から助言を受けたことの上位にも「教材研究」が挙げられていることから[15]、年齢や造形活動の経験を踏まえた教材や道具の準備、うまく作れなかった場合の対応も含めた教材研究が重要である。

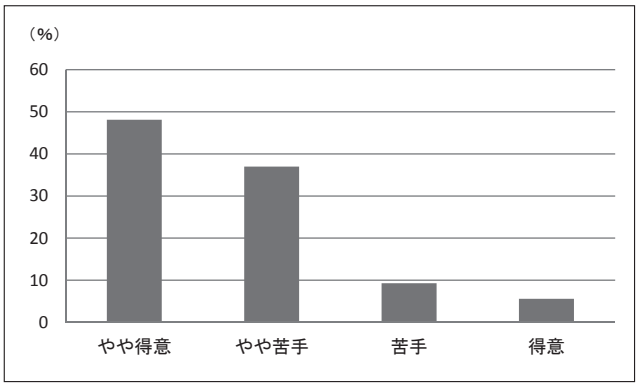


図４　造形活動の得意、苦手意識

(8) 学生自身の造形活動の意識

造形活動の意識について、学生自身がどう考えているのか、「得意」「やや得意」「やや苦手」「苦手」の選択肢で質問した。その結果（図４）、「やや得意（38.9％）」がもっとも多かったが「やや苦手」と考えている学生も少なくはなかった。

次に、造形活動の好悪について「好き」「やや好き」「やや嫌い」「嫌い」の選択肢で尋ねた。その結果、「好き」「やや好き」が合わせて80％を超え、「嫌い」は皆無であった（図５）。

「得意―苦手」「好き―嫌い」をクロス集計でみると、「好き」「やや好き」であっても「やや苦手」「苦手」な学生が35.2％いることから、造形活動は好きだけれども苦手意識も持っている学生が少くないことがわかった。したがって、実習での造形活動も自信が持てず、消極的になってしまうことも考えられた。

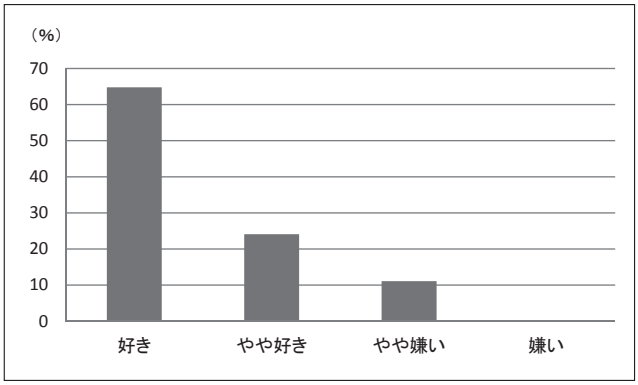


図５　造形活動の好き、嫌い意識

表１　学生の造形活動への意識

	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
得意	5.5			
やや得意	38.9	9.3		
やや苦手	16.7	13.0	7.4	
苦手	3.7	1.8	3.7	0

（%）

(9) 困っていること

造形活動で「困っていること」の有無については「ある」と回答した学生は92.5％にのぼった。「困っていること」の内容について尋ねたところ、上位は「説明の仕方」「早さの個人差」「時間配分」であった。作る早さに個人差があるため活動全体の時間配分に困ることが推測されることから、「説明の仕方」と「個人差による活動の時間配分」と考えられる。倉掛[16]の同様の調査でも、造形活動では「説明」が1位、実習全体としては「時間配分」が３位で、園児の前で間違いなくやり遂げることを優先させているのではないかとの指摘があり、指導案どおりに行うことを意識していることがうかがえる。実習全般について実習生の反省でも「導入時の作り方やルールの説明」が上位にあった[17]ことから、造形活動そのものだけではなく、幼児が活動に興味を持てるよう、そしてわかりやすい説明をする、ということが大きな課題と考えられる。

5．まとめ

実習のなかで造形活動を行おうとする際、実習生としての立場よりも幼児の気持ちや興味関心を優先させようと考える一方で、幼稚園教育要領や保育所保育指針を強く意識しない傾向にあることが明らかとなった。幼稚園教育要領や保育所保育指針と実習での造形活動が結びつきにくい、あるいは結びつける余裕がないことも推測される。造形活動を設定する際には、季節や行事を意識しており、これは造形活動にかかわらず、実習での音楽活動に関する調査では季節の歌が高い頻度で取り上げられているという報告がある[18)]ことからも、保育と季節や行事のつながりが大きいことがわかる。

幼児の思いを表せるようにしたいと考え、幼児の発達や興味関心を重視している学生は、幼児が表現したい思いを表せるようにすることを心がける傾向にあった。しかし、幼児の思いを大切にしたい、と考える一方で、作り終わった作品についての言葉がけは「上手」「頑張ったね」に集約され、作品の特徴や工夫したところに着目したり、さらに表現や創造性が育まれたりするような言葉がけは少数であった。

学生自身は造形活動を行うことは「好き」だが、「苦手」意識もあり、その「好きだけれど苦手」、という意識がすぐに使える保育雑誌や書籍、授業で取り上げた題材を実践する、ということにつながっていることが推測された。回答からは保育雑誌や書籍、授業をそのまま行うのではなく、年齢や経験に応じて、事前準備や材料、作る過程に工夫がうかがえたことから、幼児の実態や様子にも視点を持って取り組んでいたと考えられる。

活動案では、「運動会後」はお絵かき、お絵かきはクレヨン、に限定される傾向がみられ、保育の現場で指摘される画一的な造形指導や造形表現にもつながると考えられる結果となった。学生自身のさまざまな素材や道具による造形経験や、教材研究が少ないが要因となっているのかもしれない。

「困っていること」では、幼児の発達や興味関心に重きを置きながらも、活動中では作り方の説明や活動の時間配分について特に困っており、実習を上手くやり遂げたい思いもうかがえた。幼児の造形表現を尊重したいという思いと、実際に行われている造形活動の指導や展開がうまく合致していない場合もあることが考えられた。

実習生は限られた期間、限られた時間の中で、幼児とかかわり保育を構築させていく。そのなかで、部分実習を含んだ責任実習での必要な準備や、課題、活動案、困っていることなどの問題点は、いくつかに集約されることがわかった。もちろん、保育者養成機関で学んだり、短期間の実習を積み重ねたりするだけではそれらの問題は解決されない。しかし、保育者養成機関を修了し保育者になった途端、それまでの問題が変わったり解決されたりするわけではない。

今後は幼稚園教育要領や保育所保育指針をさらに活用した造形の授業を行うことが、実習での造形活動への変化をもたらすと考えられる。また、保育雑誌や書籍、授業で取り上げた題材についても、幼児の年齢や経験を踏まえ、素材や道具を変えてみるといった教材研究への取組みも必要であろう。作り方の伝え方についても一方的に実習生が幼児に話すのではなく、年齢や経験によっては作る方法を幼児自身が気がついたり考えたりするような活動を想定してみるなど、多様な指導法や援助方法を行いたい。そうすることで、活動案の幅は広がり幼児の様子に沿った活動の展開が可能となり、「困ったこと」に挙げられた「時間配分」「個人差」への悩みも軽減され、幼児の一人ひとりに応じた表現活動の指導につながると考えられる。

註

1） 大平泰子・開仁志（2009）幼稚園教育実習生への指導のあり方に関する一考察～実習生の不安や悩みを中心に，富山短期大学紀要，44，73-79
2） 五十嵐淳子（2014）実習生と子どもとのかかわりに関する研究 : 実習における悩みについての自由記述から，総合人間科学 General human science，2，3-13
3） 五十嵐淳子（2013）実習生と現職保育者との対人関係に関する研究 : 実習における悩みについての自由記述から，総合人間科学　General human science，1，73-83
4） 斉藤葉子・大木みどり（2011）実習の事前・事後指導に関する研究（Ⅶ）―責任実習における導入の問題と課題　その1－，羽陽学園短期大学紀要，9（1），1-14
5） 山田芳江（2012）幼稚園教育実習における保育実践力の学びに関する一考察 ― 責任実習の実践報告から―，四條畷学園短期大学紀要，45，51-61
6） 中村勝美（2009）保育者養成に関する実践報告―保育指導計画を中心として―，永原学園佐賀短期大学紀要，39，37-40
7） 滝山桂子（2010）保育学習に関する中学生･高校生･大学生の意識と課題 ―生活者の視点を導入して―, 日本家庭科教育学会誌, 42(3)，47-54
8） 高原和子, 滝信子, 宮嶋郁恵（2007） 保育者の保育内容「表現」の関わりとその方法―表現活動を引き出す手だてについて―, 福岡女学院大学紀要. 人間関係学部編，8，57-62
9） 津田由加子・保木井啓史（2008）創造的造形活動を期待する教師の援助について，美術教育，291，30-37
10）阿部直美（2006）保育者の言葉がけにみる子どもの主体性の育みについての一考察 ―「遊び」を通して子どもがのびのびと行動できる保育をめざして―，大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要，5，89-94
11）槇英子（2008）表現の動機と意欲，『保育をひらく造形表現』，萌文書林，115
12）島田由紀子（2005）造形用語概説，『子どもの表現を見る，育てる』今川恭子・宇佐美明子
13）上坂元絵里（2009）運動会―日常の保育に根ざした行事として―，幼児の教育，92(10)，19-23，子　志民一成　編著，文化書房博文社，213-215
14）吉村真理子・岡田美也子（2003）平成14年度教育実習の成果と分析―今後の指導の方向を探る―，千葉敬愛短期大学紀要，25，101-117
15）前掲５）
16）倉掛妙子（2003）幼稚園教育実習に関する研究（Ⅲ）実習中，学生は何に困ったか，日本保育学会大会発表論文集，56，852-853
17）前掲５）
18）小澤和恵（2009） 保育所・幼稚園実習で求められる音楽活動の考察 ―「生活の歌」と「季節の歌」について ―，埼玉純真短期大学研究論文集 (2)，37-47

島田由紀子（和洋女子大学 人文社会科学系 准教授）

（2014年12月８日受付）

〈資料〉

5歳児の主活動としての造形活動についてお尋ねします。担当したことがあればその経験を、担当したことがなければ想定して答えてください。

Ⅰ．次の質問にあてはまるものすべてに○をつけ、もっともあてはまる番号を（　）に記入してください。

1．造形活動を設定するとき、重視することは何ですか？
①季節や行事とのつながり　②活動時間　③費用　④自分が以前授業や実習でやったことがある　⑤事前準備の時間や労力　⑥幼児の発達　⑦幼児の興味関心　⑧幼児の造形経験　⑨園の方針　⑩幼稚園教育要領や保育所保育指針　⑪その他（　　）

2．（1）造形活動を設定するとき、保育雑誌・書籍や授業で習ったことを参考にしたことがありますか？
①ある　②ない
（2）「ある」と答えた人にお尋ねします。保育雑誌・書籍、授業で習ったことをそのまま行いますか？
①はい　②いいえ　③部分的な変更をした　④その他（　　）
（3）「部分的な変更をした」人にお尋ねします。変更した内容について書いてください。

3．実際に造形活動をするとき、心がけていることはどのようなことですか？
①完成させること　②見本のようにつくること　②時間配分　③発達に応じた指導や援助　④幼児が表現したい思いを表せるようにすること　⑤その他（　　）

4．出来上がった絵や作品を見せにきた幼児にどのような言葉がけをすることが多いですか？
①上手　②がんばったね　③かっこいい　④かわいい　⑤その他（　　）

5．造形活動が終わったあと、作ったものはどうしますか？
①かばんやロッカーにしまう　②展示する　③他の活動へつなげる　④その他（　　）

6．5歳児の主活動でA4のコピー用紙1枚でできる造形活動をできる限り挙げてください。

7．5歳児の主活動で「あじさい」をテーマにした造形活動を考えるとしたら、何をしますか？1つ以上挙げてください。材料も一緒に挙げてください。

8．5歳児の主活動で「運動会」のあと、造形活動をするとしたら、何をしますか？1つ以上挙げてください。材料も一緒に挙げてください。

Ⅱ．あなた自身についてお尋ねします。

1．事前に教材研究（材料や大きさを変えて試してみるなど）を行っていますか？
①必ず行っている　②ときどき行っている　③以前、やったことがあるので今はしない　④あまり行っていない　⑤行っていない　⑥その他（　　）

2．（1）主活動で造形活動をするとき（または造形活動をすると想定したとき）、準備から活動の終了までを考えて、困ることはありますか？
①ある　②ない
（2）①「ある」人にお尋ねします。困ることはどのようなことですか？
（　　）

3．造形活動は、①得意　②やや得意　③やや苦手　④苦手

4．造形活動は、①好き　②やや好き　③やや嫌い　④嫌い